

学生の確保の見通し等を記載した書類

1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

入学定員設定の考え方であるが、家政科食物栄養専攻の入学定員を、開設以来の最少の入学定員である100人を下回らないこととし、家政科食物栄養専攻の入学定員削減を国文科及び英文科の入学定員増加に充当するよう検討した結果、家政科食物栄養専攻入学定員100人、収容定員200人、国文科入学定員45人、収容定員90人、英文科入学定員45人、収容定員90人とすることとした。

定員充足の見込であるが、過去4年間の志願者数等を表した資料1「入学志願状況等」のとおり、国文科及び英文科においては、志願者数が入学定員を、今回の入学定員増加幅以上に大きく上回っていることから、入学定員を充足できると考える。また、家政科食物栄養専攻においては、資料1「入学志願状況等」のとおり、最少でも志願倍率1.78というようにもともと入学定員以上の志願者数は有しており、入学定員削減を行うことにより、入学定員を充足できると考える。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

入学定員増加を行う国文科及び英文科の定員充足の根拠となる客観的なデータは、前述の資料1「入学志願状況等」のとおりで、志願者数が入学定員を、今回の入学定員増加幅以上に大きく上回っており、平均志願倍率はそれぞれ2.96、3.23と良好な水準にあると言える。

入学定員削減を行う家政科食物栄養専攻については、前述のとおりで、最少でも志願倍率1.78というようにもともと入学定員以上の志願者数は有しており、入学定員削減を行うことにより、入学定員を充足できると考える。ちなみに、入学定員を削減後の100人として、過去4年間で最少である平成30年度の志願者数196人を使って志願倍率を算出すると、ほぼ2倍である1.96となり、危険水域を脱することができる。今後は、平成30年度の志願者数を最低ラインとして、志願者数の増加に向けて広報活動等を強化し、入学定員の確保に努めたい。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

オープンキャンパスを年7回前後開催しており、資料2「オープンキャンパス来場者数」のとおり毎年多くの来場者がおり、たいへん好評である。

また、毎年6月には本学において、高校教員を対象とした入試説明会を開催している。全体説明や個別相談を行っており、毎年100人前後の高校教員が参加していて、盛況である。

その他、予備校や新聞社等が開催する進学相談会は年90回前後、高校における進学説明会は130校以上で行っているほか、本学における公開授業や高校における出張授業などの高大連携事業、本学主催・千代田区後援の大妻さくらフェスティバルをはじめとした地域連携活動等を積極的に行っており、本学のアピールに努めている。

千代田キャンパスでは再開発プロジェクトが完了し、平成25年のE棟を皮切りに、平成26年にF棟とJ棟、さらには、平成28年に講義室、ゼミ室のほか情報処理実習室・自習室、研究室等を備えた地上8階、地下2階のH棟、平成29年度に2つのアリーナ、学生のためのアクティブラーニングスペース、講義室、ゼミ室等を備えた地上7階、地下2階のG棟が完成した。先進的な設備を備えた講義室、ゼミ室、実習室等が数多く配置され、学習環境が格段に

改善されている。そして、このことは、学生確保に向けての大きなアピールポイントとなっている。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は、その目的を以下のとおり定めている。

本学は女子に対し広く一般教育を施すと共に専門的な学芸を教授し、高い教養と職業及び實際生活に必要な能力を有する人材を育成することを目的とする。

そして、これに適合させる形で、学科・専攻における「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」を定めている。

収容定員変更を行う学科・専攻における「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」は、以下のとおりである。

<家政科食物栄養専攻>

「食」と「健康」に関わる知識と技術を総合的に身につけ、健康づくりに貢献できる専門的知識を持った栄養士を養成する。

<国文科>

現代を生きる上で必要な情報を自分の力で獲得し、確かな日本語能力を身につけるとともに、人間性豊かな社会人として国際化する現代社会で活躍できる人材を育成する。

<英文科>

英語による表現能力を高め、英米を始めとした世界の文化に深い関心を持って日本の将来を考え、自分の主張を組み立て、それを英語を通して、21世紀の世界に向かって発信していける人材を育成する。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 学校法人大妻学院は、創立110周年を期して平成30年度に、同学院のミッションを以下のとおり定めている。

- ・ 学び働き続ける自立自存の女性の育成
建学の精神を継承するとともに、常に時代の変化に適応し、「学び働き続ける女性」として社会のあらゆる分野に主体的に参画貢献できる自立した女性の育成を目指す。
- ・ 女子教育に積極的な役割を果たす教育・研究活動
人間生活文化活動の多方面に亘る真理考究において、積極的な役割を果たす研究業績を積み重ね、社会の負託に応えられるような教育・研究機関を目指す。
- ・ 持続可能な共生社会の実現への貢献
地域住民や国内外の企業及び行政機関あるいは教育機関等との協働活動に積極的に参画し、社会から信頼を受け、慕われ愛される存在として持続可能な共生を目指す。
また、本学は、このミッションを推進するために必要な教育目標を以下のとおり定めている。
- ・ 総合的な人間教育により社会の構成員としての自覚と識見を有する自立した人材を育成する。
- ・ 男女共同参画社会において、グローバルな視野を持ち中核的な指導的役割を果たすことができる専門的職業人女性を育成する。
- ・ 女子高等教育において、教育分野及び研究分野の女性後継者を育成する。

- ・ 地域・社会との連携において、指導的役割を果たせる女性を育成する。

これらの教育目標に掲げられているものは、現代社会で求められている人材であり、学科・専攻で媒体は異なるものの、このミッション・教育目標が根幹をなしている上記(1)の「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」は、社会的・地域的な人材需要の動向等に合致したものである。

資料3「就職希望者に占める就職者の割合」は、収容定員変更を行う学科・専攻の過去5年間における就職希望者に占める就職者の割合を示したものである。家政科食物栄養専攻については、96%以上で推移しており、たいへん好調である。国文科及び英文科については、概ね80%前後で推移してはいるが、教育の質の維持・向上に伴って、今後さらに上昇することを期待するものである。

また、本学への求人についてであるが、資格が必要な特定業種を除き、ほとんどが対象学科・専攻の指定がないものとなっており、特定の学科・専攻に限定した求人受理件数としては数値化することはできないが、本学全体の状況は資料4「卒業者に対する求人受理件数の割合」のとおりであり、過去5年間6倍以上で推移している。1件の求人票で複数名の求人もあることから、実際はこの求人票受理件数以上の求人がきており、また、景気の緩やかな回復や人手不足などを受けた企業の採用意欲の高まりは今後も続くことが予想されるため、十分な人材需要があると考えられる。

資料1

入学志願状況等

学部等名	項目	27年度	28年度	29年度	30年度
家政科 食物栄養専攻	入学定員	110	110	110	110
	志願者数	382	260	217	196
	受験者数	362	240	194	183
	合格者数	180	165	173	171
	入学者数	112	111	103	96
	志願倍率	3.47	2.36	1.97	1.78
	入学定員超過率	1.01	1.00	0.93	0.87
国文科	入学定員	40	40	40	40
	志願者数	143	124	123	85
	受験者数	138	122	118	83
	合格者数	77	58	57	73
	入学者数	53	46	51	43
	志願倍率	3.57	3.10	3.07	2.12
	入学定員超過率	1.32	1.15	1.27	1.07
英文科	入学定員	40	40	40	40
	志願者数	148	102	126	141
	受験者数	145	96	120	137
	合格者数	99	78	78	76
	入学者数	49	46	47	48
	志願倍率	3.70	2.55	3.15	3.52
	入学定員超過率	1.22	1.15	1.17	1.20

資料2

オープンキャンパス来場者数

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
17,683	17,766	16,803	16,983	※ 15,539

※ 平成30年度の来場者数には、平成31年3月23日(土)開催の学科説明会の来場者は含まれていない。
なお、同説明会については、平成28年度は1,573名、平成29年度は1,526名の来場者があり、平成30年度も1,500名以上の来場者を見込んでいる。

資料3

就職希望者に占める就職者の割合

学部等名	卒業年月	就職希望者	就職者	就職希望者に占める就職者の割合
家政科 食物栄養専攻	平成26年3月	134	132	98.5%
	平成27年3月	121	118	97.5%
	平成28年3月	131	130	99.2%
	平成29年3月	91	88	96.7%
	平成30年3月	87	84	96.6%
国文科	平成26年3月	35	27	77.1%
	平成27年3月	27	19	70.4%
	平成28年3月	25	20	80.0%
	平成29年3月	31	27	87.1%
	平成30年3月	33	26	78.8%
英文科	平成26年3月	47	42	89.4%
	平成27年3月	40	32	80.0%
	平成28年3月	47	38	80.9%
	平成29年3月	26	21	80.8%
	平成30年3月	20	19	95.0%

資料4

卒業生に対する求人受理件数の割合

学部等名	卒業年月	卒業生	求人受理件数	割合
大妻女子大学短期大学部	平成26年3月	550	3,464	6.3 倍
	平成27年3月	489	3,256	6.7 倍
	平成28年3月	525	3,661	7.0 倍
	平成29年3月	402	4,304	10.7 倍
	平成30年3月	385	10,299	26.8 倍

※ 平成30年3月卒業生に対する求人受理件数については、求人受理システムの変更により全国から集まるようになったため、前年比2倍以上の増加となった。